

磐城自治新報

發行日 一月十五日(毎月二回)
 編輯印刷 箱崎義一
 兼發行人
 福島縣石城郡本町
 天王崎四四番地
 發行所 磐城自治新報社
 電話四〇〇
 紙代 一部十錢送料共
 廣告料 五號十二字詰一行金五
 十錢場所指定金壹圓

昭和五年を迎ふ

一陽來復正月は何んぞなした楽しい、氣ものびくこする、嬉しい事斗りである。昨年苦しみは一夜にして此の樂しみである。屠蘇機嫌のニコニコ顔鬼も閻魔も見られない、然しよく考へて見るこ今年は、中々にそれは香氣に構え込んで居られない、不景氣の風は隅の隅迄吹き荒んで居る、緊縮節約はあらゆる方面に浸潤して居る、一年の計は元日にありといふ、今年の正月は余り目出度い事斗り並べ立て、いらぬ、金の輸出解禁といふ一大鉄槌が振り下ろされたのである。是迄勝手に通帳で成行委せにやつて来た、財産のやり繰が一變して現金賣買となつたのである、台所から神佛のものに至る迄一切掛けがきかない、歳入より歳出が多ければ其丈我が身を喰ふ事になる、茲に於てか吾人は一大決心を以て萬事に當らなければならぬ、行さあたりばつたりの自墮落な心持では、この經濟的難關を突破する事は不可能である、官民一致異常の緊張と覺悟を以て禪を引締めてかゝらなければならぬ、今暫くは不景氣は深刻になつて行く、一足飛びに財界の好轉は望まれない、曉の前の寒さが増す様に好況の前に一層の財界不振を見るは火を暗るよりも瞭がである、是からは全世界の經濟戰に一人前として宣戰を布告したのである、勝つも負けるも國民の心掛け一つである。收入の増加を斗り節約を守り何事も經濟的合理化を以て能率の増進を計なければならぬ、然かする時は、是迄一度も諸外國に敗を受けた事もない我國である、洋々たる春海に望むが如き樂天地を現出するも遠き將來ではない。

今日の苦を忍べ
 然して明日の樂しみを
 祝福すべく勉めよ。

終

謹賀新年

代議士 比佐昌平	代議士 木村清次	縣會議員 鷺清昇	鷺清昇	古川傳一	野崎滿藏	鈴木辰三郎	山崎吉平	若松美三	安島重三郎	高岡唯一郎	金成通	井上茂作	小野晋平	山田村長 下山田嘉一郎
錦村長 鷺重三郎	錦村助役 田部保晃	勿來町長 大平睦四郎	川部村長 兒玉萬平	渡邊村長 高木甚惣	小名濱町長 鈴木木榮	小名濱町助役 高木保	玉川村長 駒木根忠三	入遠野村長 樋口幸右工門	内郷村長 野木龜之助	好間村長 金成淺治	平町々會議員一同			

共同主義の金融機關僅かな掛金で纏まる資金湯本無盡をお進め致します。電話温泉四十七番

此の難局に際し

如何に展開すべきか

代議士 比佐昌平述



昭和も本年で早や五年新春の之れ即ち經濟的生活の安を迎ふるに至つた。年が新定を缺いて居る所以である

昭和も本年で早や五年新春の之れ即ち經濟的生活の安を迎ふるに至つた。年が新定を缺いて居る所以である

昭和も本年で早や五年新春の之れ即ち經濟的生活の安を迎ふるに至つた。年が新定を缺いて居る所以である

其後今日迄で奢侈の風が已嚴と國家の隆昌とを天地神に其目的を達成すること

其後今日迄で奢侈の風が已嚴と國家の隆昌とを天地神に其目的を達成すること



世相を唱破したる金言であつた。老生は茲に昭和五氏當選せらる。

磯崎淺吉 若松利次郎 馬目政治 比佐保次郎 菅波駒之助 柏木清七 諸氏當選す

佐藤三平 内郷村電話四百三十番

小松崎 洗張本店 電話七七〇番

栗原製靴店 湯本町 電話一六番

坂本商店 自動車部 電話一七番

山形屋 湯本町 電話四番

松柏館 湯本町 電話五番

片岡醫院 湯本町

石井金物店 湯本町

坂本龜太郎 植田町 電話一〇番

佐藤勇 湯本町

松の月 電話二三番 呼出

畑爲七商店 湯本町

奥山履物店 時節柄破格の大勉強

品川白煉瓦株式會社

新案特許大平式地質調査(ボーリング) 大平組 東京事務所 東京市牛込區市ヶ谷左内町三十一番 電話牛込(34)二三三九番 主任 大平又太郎 藤原郵便局 局長 小松次

請負測量 大平組 主任 大平又太郎 本店事務所 福島縣石城郡植田町 主任 大平三三郎

湯本地下採掘行政訴訟

星仙臺監督局事務官の來湯を求め 三函座に於て祝賀會を開催す

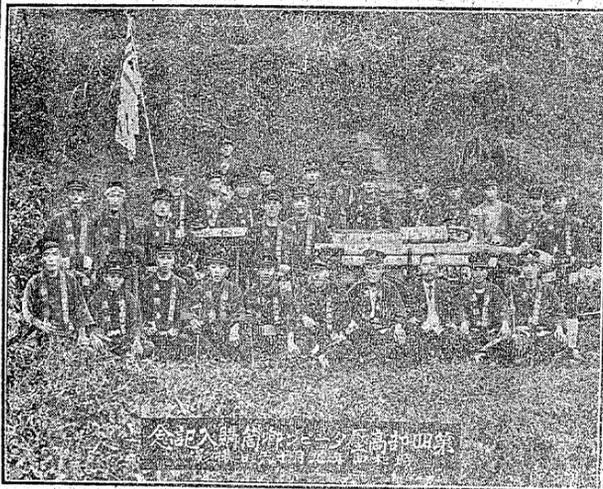
石城郡湯本町地下採掘出願頭審問の結果昭和三年四月第二は洪水湧水に對し悪影響に關する仙臺礦山監督局對二十二日第二回の實地檢査を要す事あること
東京吉本眞一氏の行政訴訟及監定となり同年十月八日第三は地質構造當町の生命は五ヶ年間の月日を費し漸第六回同年十一月七日第七も見るべき温泉に悪影響を監督局の勝訴となりいよ回の口頭審問がありましてをよほすこと
いよ湯本町永遠の不安は一略結審の模様となり本月三第四は以上三點に就いて當度き極みであります
掃される事になつたので町日被告及参加人側の勝訴に町住民に危懼不安の念を抱民歡喜の内に去る十八日全なりました次第で吉本氏に町三函座に於て祝賀會を開催祝賀會席上監督局出願係及國家のため同慶の至りと主任星惣吉氏は左の祝辭演存じます本件は當町出願のを述べられた。

吉本直一氏の試掘願ひは大居ります従つてこの認記正十三年九月十九日出願せ録も紙の厚さ五寸以上になられ翌十四年八月三十日目つてをりますこの整理に當下東京局に在る佐分利輝一かつ澤田專理殿の御苦勞の君と私が實地調査をなし程深く拜謝致します
その結果大正十五年七月十結果を推測せられてより判六日公益を害するものとし決まで一ヶ年有餘の時日がて不許可となりましてありましたため種々の悪宜あります處が大正十五年八月傳があつた様ですが何れも月十二日吉本氏より行政訴訟正義に勝つことが出来なかつたのは當然ことと思はね訟を提起せられまして
同年十月二十七日第一回 ばなりますまい
昭和二年一月十四日第二回 湯本町の地下採掘不許可の理由は既に御承知の如く大同年三月二十三日第三回 理由は既に御承知の如く大同年六月一日第四回 の口別して左の点とします、
頭審問を経まして六月二十されど本回の判決理由を見日第一回の檢證となり六月なれば何處の邊まで前記二十二日當町において被告四點を正當と認められたるかのため参加申請せられまし明瞭でありません
たのが七月二日許可となり第一は地表亀裂陥落を誘起同年十一月九日第五回の口する虞れあること

かじめ延いて地方の安悦を害する虞あること
これに對し原告よりは遠く福岡縣地方の事情を引用し種々と立證反駁する處がありましたが善く被告及参加人側の主張を却却する理由には不足す或は被告の法規誤解を理由として攻撃致しましたがこれ又不成功に終り當町永遠の地下保全を而り法律上保證せらるるに至りましたことは誠にお目出度き極みであります

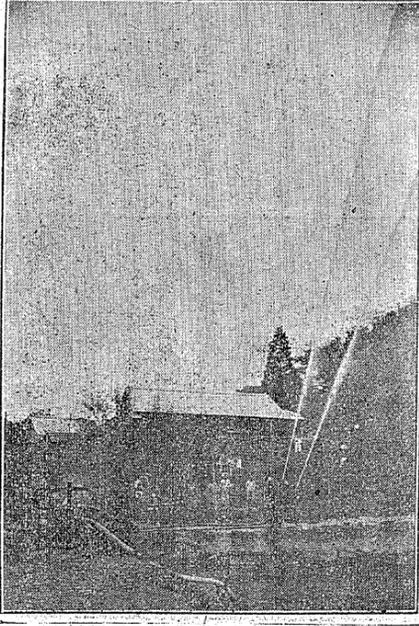
井坂組頭外幹部一同の 努力の功空しからず 近時著しき發展を見る

石城郡湯本町消防組現組頭上發展を計り縣下優良消防井坂千代松氏は昭和貳年九組の基礎を確立された事は月組頭拜命以來専心斯界向本縣消防界の爲喜べき事である



湯本消防組 組頭 井坂千代松 顧問 渡邊長作 若松修助 若松利惣次 村上六平 矢吹莊司 小頭 鯨岡賢司 白石義雄 九頭見清市

の現在全町の戸数は三千箇購入に際し全員一同協議四百餘戸を有し組頭以下壹の上一ヶ年間の夜警費及び白九拾參名の組員と五台の出場手當貳百五拾圓を消費カンソリン脚筒及び五ヶ所の壹千壹百圓は全町篤志家の鐵骨火見櫓に依り全町の身寄附七百八十圓の町より補助財産を保護されて居ることに特筆大書すべき事は第を購入是れが放水式を去月四部の二十馬力タービン脚筒中施行した。



品川白煉瓦湯本支工場

品川白煉瓦湯本支工場 職工に賃金の値下げ 百四十名に一割五分を
石城郡湯本町品川白煉瓦工割五分の値下げをしたが不場は吹きまわる不景氣に見況折柄でもあり労働者でも舞はれ去る月末廿名職工をあきらめ平常の如く何等不鹹首したが更に今回百四十穩の形勢はないようである名の職工に對し賃銀平均一

局長 小港 徳次 大沼三七郎

石城郡平町 學校長懇話會

石城郡第一區 校長會
石城郡第二區
石城郡第三區
石城郡第四區

柴田 正則 外職員一同

伊小 泉義浩 外職員一同

湯本 前川 三省 外職員一同

玉川 杉山 勇馬 外職員一同



大平、陸、四、郎

<p>湯本區會議員 佐藤 德兵衛 鯨岡 誠祐 金成 嘉吉</p>	<p>湯本消防組頭 井坂千代松</p>	<p>鯨岡 愿道 比佐 源造 松繁 庄一 鬼澤 八百松 宮木 利一郎 大和田 主馬造 石川 德壽 比佐 賢司 小井戸 大次 木村 德三郎 鯨岡 賢司 若松 孝平 小野 福次郎 上川 才松 矢吹 佐市 矢吹 莊司 村上 六平 渡邊 長作</p>	<p>湯本町會議員 鯨岡 愿道 比佐 源造 松繁 庄一 鬼澤 八百松 宮木 利一郎 大和田 主馬造 石川 德壽 比佐 賢司 小井戸 大次 木村 德三郎 鯨岡 賢司 若松 孝平 小野 福次郎 上川 才松 矢吹 佐市 矢吹 莊司 村上 六平 渡邊 長作</p>					
<p>磐崎村會議員 北郷 秀之助 高木 源八 小畑 富之助</p>	<p>縣社温泉神社 氏子總代 若松 忠兵衛 井坂 千代松 鈴木 金三郎 富樫 惣吉 比佐 保太郎 管波 駒之助 馬目 政次 磯崎 淺吉 若松 利惣次 柏木 清七</p>	<p>御代 富彌 渡邊 孝平 若松 孝一 高橋 勇五郎 後藤 利吉郎 生田 日嘉清 須藤 熊雄 西原 末吉</p>	<p>柴田 彦次郎 四家 秀行 藤田 善吉 瀧 德也 白石 猶藏 大井川 十郎 木田 周平 大平 左久馬 久田 克位 箱崎 權重郎 芳賀 松次郎 佐藤 助太郎 酒井 嘉七 小野 右京 野木 左内 里見 衆吉 會田 政治郎 野木 巳之助 鈴木 辰之助 若松 總太郎 渡邊 豊介</p>					
<p>三井炭坑 佐藤清三郎 三宅 富助 鈴木市郎</p>	<p>家屋曳 運搬業 戸倉重次郎</p>	<p>店主 國井 租 國井精米所</p>	<p>湯本町 小野精米所</p>	<p>植田町 遠藤義雄</p>	<p>美味で安價が特長 登喜和</p>	<p>御料理仕出し 電話二二番 白土 自動車部</p>	<p>湯本町電話一〇四番 高萩佐久馬</p>	<p>好間村 森吳服店</p>
<p>湯本町 坂本文次</p>	<p>湯本町長 小泉三代喜</p>	<p>湯本郵便局長 鯨岡 潔</p>	<p>荒物雜貨 砂糖各種 電話五十二番 吉田恭平商店</p>	<p>石材自動研磨機應用 馬目 隆義</p>	<p>馬目石材調刻 馬目 隆義</p>	<p>營業種目 內地材 材木各種 羽柄材各種 建築諸材 請負 外材部 米松 米杉 大角製材調達 請負其他 常磐線平町 電話三三五番 佐藤材木店</p>	<p>植田局 局長 馬上守一</p>	<p>新地 一寸一杯おでん安兵衛 若松 幸藏</p>
<p>醬油釀造元 大倉屋本店</p>	<p>湯本町 電話五十八番 鹽屋吳服店</p>	<p>湯本座前 電話三七番 片寄商店</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 若松 幸藏</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>
<p>湯本町 籠倉 醫院</p>	<p>湯本町 大倉屋本店</p>	<p>湯本町 電話三三五番 片寄商店</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 若松 幸藏</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>	<p>湯本町 電話三三五番 先崎 集惠</p>

共同主義の金融機關僅かな掛金で纏まる資金湯本無盡をお進め致します

大藏省免許

謹賀新年

新年の御慶を申上りませう

土木建築請負業

合資會社

丸山組

平町 電話六十二番

猪狩菊三郎

平町 電話四七三番

丹野幹之丞

平町 電話八〇六番

荒川銀次

平町

松本勇平

平窪村

成瀬巴三

植田町

中山吉之助

川部村

前澤文太郎

平町 電話二七二番

只野忠康

平町

佐々木健一郎

平町

強口唯七郎

好間村

高木綱次

赤井村

西山新重郎

大野村

赤塚兼助

湯本 電話六十一番

渡邊長作

湯本町 電話四十番

堀井工業株式會社

社長 江口忠一

常盤工業株式會社

社長 小野庄一

東部電力株式會社

平營業所

村長

酒井嘉藏

助役

酒井賢吾

收入役

佐藤八郎

書記

白鳥宏弐

久保木丈介

佐藤菊松

中野常助

吉田正治

箱崎恒司

鑛泉旅館

湯元 喜樂屋 湯の中 春木屋 吉屋田

常磐線湯本驛下車西廿八丁

自動車力車便あり

謹賀新年

入山探炭株式會社

湯本礦業所

電話 三番

三井礦山株式會社

湯本礦業所

電話(三十四番)

磐城炭礦株式會社

古川炭礦株式會社

小名濱水産工業株式會社

社長 小野 晋平

湯本無盡株式會社

社長 鈴木 康平

磐城建物株式會社

支配人 井上 喜次郎

小田炭礦株式會社

社長 萩原 申八

植田水力電氣株式會社

社長 金成 通

植田物産株式會社

山崎 登

株式會社 七十七銀行平支店

五十嵐炭礦 不動澤礦業所

石城郡 内郷村

杉山炭礦々業所

礦主 杉山 今朝雄

常磐線 湯本驛 正丸 正運送店

電話 二十一番



湯本運送株式會社

社長 長岡 義守

石城郡銀行組合

四ツ倉銀行會社組合

勿來自動車株式會社

北郷 廣作

常磐自動車合資會社

青天 目信次郎

醬油味噌鯉節

山崎合名會社

磐城 平町

營業部 電話一〇番
工場 電話二七番

良品廉賣に勝る商略なし

磐城セメント會社特約店

和洋銅鐵 釜屋商店

磐城平 電話九番 一三九番

確實敏捷は釜屋の生命なり

清世界 清水屋

銘酒各炭礦 小野 晋平
御用 達 電話 六番

太平 大平 正次

西本田屋 磐崎 村
電話 五十三番

都々逸 釀造元 赤津修一

勿來町 電話 三番

花井の譽 大平陸四郎

勿來町 電話 五十七番

貸切自動車の御用命は

昭和タクシー

高級自動車で乗心地の好い

昭和タクシー 電話 三四三番

處方調劑 福島縣平町五丁目角

藥品一般 体温表暖計 滋養藥品 化粧品 山野邊藥局

藥劑士 山野邊 東次郎

平サービステーション

磐城國平町驛前 電話 六一一 番